

優秀賞 一般部門

大阪府

堀内 貴美子

胸を張って

今月、結婚式の広君へ

あなたに黙っていたことがあるの。それは、あなたの実のお父さんのことよ。あなたが1歳で、お母さんが27歳だった。

郵便受けに白い封筒が入ってたね。それは、8ヶ月ちかく帰宅しないお父さんから。仕事を終えて、あなたと保育園から帰った時よ。封を開けると、離婚届の用紙が入ってたね。既にお父さんは記入済みで、あとは、お母さんが書くだけの。不意を付かれた紙だったの。でもね、その時、解放されたような気持ちになって。喧嘩した訳でもないのよ。ただ、お父さんには好きな人がいたみたい。「私を好きになって」なんてお母さん言えなくてね。待てど帰らない、そんな生活に、初めは苛立ったけど、もう広君と二人だけの生活に慣れてしまったのがいけなかったのかな。

田舎のお婆ちゃんに知らせると、新幹線で来てくれたのよ。あの時のお婆ちゃん、強かったなあ。「養育費はいらない、子供の親権は、娘にしてほしい。一生、娘は悔やむことになる」と言ってくれて。傍で泣くお母さんには、「芸能人でも離婚する時代だ。お前は、流行の最先端だ、胸を張り生きてゆけ」と言ってくれて。その言葉が、ずーとお母さんの励みになってるの。お婆ちゃん、愚痴のひとつも言いたかつたらうな……。でも、黙ったまま帰省したの。

離婚し、色々あったけど、それ以上に、あの時の言葉に「立派に育ててみせる」と闘志に燃えたわ。看護師として、益々頑張れたわ。それは、広君、あなたがいたからよ。

本当におめでとう。34歳を前に、結婚は年齢では決まらないからね。それにしても、お婆ちゃんの墓参りに二人で行ってたなんて。お婆ちゃん喜んだだろうな。ありがとう。

何より、家族を一番に考えて、温かい家庭を築いてね。立派でなくていい。尻に敷かれる位でいい。……もう伝えることは無いよ。

広君を育ててこれて、幸せでした。